

小学部低学年グループ研究

1 研究グループの概要

- ・低学年Iコース（知的障害）在籍児童29名（1年生12名、2年生11名、3年生6名）
- ・研究グループの構成は、担任15名+初任研担当1名

2 研究経過

①児童の実態把握

・ラーニングマップ(※1)を参考に、担当する児童の国語・算数の学習における段階を確認。クラス担任と意見交換しながらチェックを行うことで、教科学習における児童の実態を客観的に確認することができた。

※1 『「ラーニングマップ」から学びを創り出そう』 ジアース教育新社

	国語				算数			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
1段階	11名	9名	4名	24名	11名	8名	3名	22名
2段階	1名	2名	2名	5名	1名	3名	3名	7名



②「授業実践シート～指導と評価の一体化を目指して」を活用した授業実践

- ・教員が授業を担当している児童の中から研究事例対象として1名を選定したうえで、国語と算数のどちらかを選択し、授業実践について共通のシートに記入しながらすすめた。（国語9事例、算数8事例）
- ・研究事例対象の児童について、目標と評価規準を設定してシートに記入し、クラス担任を基本とした小グループで確認や意見交換（グループワーク）を実施。
- ・シートに沿って授業実践の振り返りと評価を行い、グループワークでの意見交換を踏まえて、目標や評価規準と学習の手立て等の変更や改善を行った。



【実践の中で出された課題や疑問点】

- ・規準と基準の違いがよくわからない
- ・目標と評価規準の関係、違いは？
- ・適切な評価規準の設定が難しい（高すぎた、低すぎたがあった）
- ・評価の表記（◎○△）のうちどこまでを目指すのか
- ・指導をすすめていくうちに、当初考えた評価規準があっていないと感じた時に変更は可能なのか
- ・「態度」の評価規準の設定が難しく感じる
- ・児童の実態を的確に把握して設定することの重要性を感じた など



③実践事例についての意見交換と情報共有

- ・授業実践のうち5事例（国語3事例、算数2事例）を取り上げ、グループ全体で情報共有し意見交換を実施。
- ・実践の経過について、シートに沿って授業担当者が説明し、課題や悩んでいる点などについて報告。
- ・実際に使用した教材を紹介。
- ・報告に対して、指導方法や指導内容についての意見やアドバイスが出され、今後の指導の参考にすることができた。
- ・報告された事例に共通して「学んだ事を今後、日常生活の中で活用する」ということが課題であった。

★グループワークでは、クラスの教員を基本として小グループを構成したが、同じ課題や段階の児童の担当でグループを設定するとより深めることができたかもしれない。

3 研究の成果と課題

【成果】

- ・「評価規準」「評価基準」の違いについて考える機会となり、教員の意識が高まった。
- ・授業の際に教師が、ねらい（目標）をしっかりと意識しながら指導することができた。
- ・シートに記載していくことで、自分の実践の経過を振り返り、改善していくことに役立った。
- ・クラスやグループ全体で児童の実態を共有することができたことで、新しい実践にも取り組むことができた。
- ・国語や算数の授業について、意見交換や考えを深める良い機会となり、今後の実践に向けての指導方法や教材のアイデアを得ることができた。
- ・グループワークを通して、国語算数以外の学習場面での指導にも関連して考えることができた。

【課題点】

- ・評価規準と評価基準についての理解がまだ不十分である。
- ・適切な目標や評価規準を設定していく方法を検討する必要がある。
- ・国語と算数については個別学習が基本となるため、担当一人で評価規準を設定することになり難しかった。

4 次年度に向けて

- ・評価規準と基準について引き続き研修する。→共通理解を図る。
- ・評価規準の作成を通して教員間で意見交換を行うとともに、資質向上を図る。
- ・個別学習だけでなく集団授業についての授業実践（研究）にも取り組み検討する。